

# 市民（成人，障害者，生徒）における歯科保健の現状と課題

## 「仙台市歯科保健実態調査」結果（第1報）

ツカダ ミツオ タウラ カツヒコ  
塚田 満男\* 田浦 勝彦<sup>2\*</sup>

**目的** 市民（成人，障害者，生徒）における歯科保健の現状と課題を明らかにすることにより，今後，地域において展開される歯科保健対策推進の方向性を検討する。

**方法** 仙台市が平成11～12年度に実施した「仙台市歯科保健実態調査」の調査結果を基に成人市民（一般成人，障害者，障害児保護者，保育所・幼稚園児保護者，小学校3年生保護者）および中学1年生，高校3年生を対象に歯科疾患の日常生活に及ぼす影響や歯科保健に関する知識，意識，歯科保健行動や歯科保健情報の充足度等を対象群別，性，年代別に集計，分析するとともに群間比較を行った。

**成績** アンケート調査票の有効回収率は個人に対する郵送法で実施した成人調査は26.9%と低かったが，施設等を通じて配布，回収した調査（障害者，保護者，生徒）では69.1%から94.2%であり，ほぼ良好な回収率であった。その結果，成人市民の約半数は過去1年以内に歯科治療を受けており，そのうちの約7割の者には歯科疾患に関連した自覚症状を認めた。成人対象の約30%の者と中・高校生対象の4.2%～6.0%の生徒は歯科疾患とそれに随伴する不快症状により日常生活に支障を来していた。「ムシ歯は病気と思う」と回答した者は中学1年生の39.2%から小学3年生保護者の62.7%であり，成人市民の4割は「年をとると歯が抜けるのは仕方ない」とみなしていた。

また，すべての調査対象が「歯科疾患（う蝕，歯周疾患）の予防法」の第一選択肢として「歯みがき」をあげ，う蝕予防効果が科学的に確認されている「フッ化物」の応用をあげた者は少なく，歯周疾患予防に有効である歯間部清掃用具の使用者も小学3年生保護者の4割が最多で，成人市民では1割に過ぎなかった。成人市民の6割強は「かかりつけ歯科医」があると答えたが，「定期健診」の受診者は1割弱にすぎず，1年以内に「歯みがき指導」や「歯石除去」を受けた者の割合も低かった。

「8020運動」を聞いたことがあるとする市民は4割強に止まり，「喫煙と歯周疾患が関係ある」と回答した者は3割であった。

**結論** 本調査では，成人対象の34.2%の者が歯科疾患やそれに由来する不快症状により日常生活に影響を被っており，依然として歯科保健は社会的な課題の一つである。今後，市民の歯科保健の向上のためには歯科保健意識の醸成を図るとともにヘルスプロモーションの理念を基盤に，科学的根拠に基づいた体系的，継続的な歯科保健対策の推進が必要であることが明らかとなった。

**Key words**：歯科保健実態調査，アンケート調査，歯科保健対策，歯科保健意識，歯科保健行動

\* 仙台市青葉区保健福祉センター

<sup>2\*</sup> 東北大学歯学部附属病院予防歯科

連絡先：〒980-8701 宮城県仙台市青葉区上杉  
1-5-1 仙台市青葉区保健福祉センター 家庭健康課 塚田満男